

高倉昔ばなし芝居

高倉郷土芸能保存会

平成二十二年二月初演

公民館芸能発表会於

十四番 観音堂建立記之三

解説

この観音堂建立当時高倉寺の境内は入り口の左側に石の地藏様が一つ立っているだけ、畠に続く参道の奥に軒に小さな梵鐘の掛かっている小さな本堂が一つあるのみの閑静な聖域であった。

又、村の戸数も東高倉村を合わせても五〇足らずの小村であった。ここに観音堂、しかも飛騨の匠の手になると云うしろものが、建立されると云うのであるからもう村中大いに盛り上がったことであつたと思われる。

さて今から二六八年前寛保二年の高倉寺では、宮大工の住んでいる入間川上流の村々へ大工を頼みに行った坊様と名主様を送り出した村人は寺から帰らず建立工事の話に熱が入っていた。

ニンバ 開幕 ①

源工門

「なあみんなあ、坊様も手前てめえで頼みい行ぐたあやられたなあ。これじゃあみんな本気で助けねえ訳にやあいかねえなあ又一本取られたーい」

清吉

「へーえ坊様も一本取って信と用も得るたあさすがだなあ。まあ取られた物あ めっけんべえや 平さんも頼まーい」

平蔵

「あいよー清さん 又むずかしゆうゆい出したなあ
「どーこだ どこだ どこ行った おらが大事な宝物ものどくらあ」

清吉

「へ出てこい 出てこい 宝もの めっけても めっけてもあにもねえ」

清吉、平蔵

「へアー貧乏寺だよ おらが寺 あんにも無しかよ おらが寺ってかあ」

源工門

「清さん、平さん ふざけてんじやあねえよー 名主様に頼まれてた

観音堂の建てっぱあ考^{かんげ}えとかなくつちやしようがるめえで」

清吉

「源さん そんなくれえ わかってるよう、さてお堂の立てっぱあ、どこがいいかなあ、どこがいいかなあ」

平蔵

「へさてどこがいいのか あっちにするか いやいやいやいや こっちにするか」

清吉

「へ平さん 平さん ちと来てくん な これを持ってて立っててくん な 東どっちか 西どっち 東どっちか 西どっち」

源工門

「又始めやあがった しょうがねえなあ 西ドツチなんか持って来てよう よせよう いいかげんでよせよう いいかげんでよせよう」

ニンバ 閉幕

坊様、名主 花道より入場

名主

「坊様、坊様でも赤坂まで来ましたでえ もうおろしてくらっしえよう 村のみんなにみらいちやあかっこうがつかねえ、おろしてくらっしえよう おろしてくらっしえよう」

坊様

「いやいや何も私より年上の名主殿なれば一向にさしつかえ無いのに

のー まあ それなれば交代しましょうかなあ、では、よいしょのしょつと、では乗らせてもらいますよ よいしょと」

名 主

「坊様これじゃあ馬に乗るっちゅうより馬あはくっちゅうかっこうだなあ
ハハハハハハハハハハ どう どう どう
く赤坂登ればよー お寺が見えるよー これが大事なおらが寺ってか
どう どう どう どう どう どう」

ニンバ 開幕 ②

坊 様

「皆の衆、寺で待ってて下されたか、宮大工ふたかた一ふた方頼めましたぞ 心よく
引き受けてくださいました 先ずは安堵致しましたぞ」

名 主

「まあ みんな、そう云う訳だ坊様の云う通り心配ねえ、ところで頼んだ観音堂の立てっぱあ見当あついたかい」